

ANNUAL REPORT

令和4（2022）年度 年次報告書



社会福祉法人 武蔵野会
千代田区立障害者福祉センター えみふる



人と人、 地域をつなげる

千代田区立障害者福祉センターえみふるの“えみふる”とは、「笑みがあふれる」という意味です。
利用されている方や地域の皆様が、自分らしく充実した毎日を送れるように様々な支援を提供しています。

本事業所は、平成 22（2010）年に社会福祉法人武蔵野会が指定管理者として運営を開始し、令和 2（2020）年からの新たな 10 年において「人と人、地域をつなげる『絆』を創り出す」ことをミッションに掲げました。
私たちが目指す地域社会の実現に向け、10 年間の事業計画と目標（ロードマップ）にまとめ、その成果をアニュアルレポート（年次報告書）としてお伝えします。

アニュアルレポート（年次報告書）とは、本来経営的な数字を報告書としてまとめたものですが、私たちはロードマップに基づき活動してきた成果や取り組みの進捗を、数字や写真などより具体的な形で伝えることで、皆様と築いてきた関係を形にすることを大切にしています。本レポートからえみふるをより深く知っていただき「応援したい！」と思っていただけるよう想いを込めてお伝えしていきます。

自分を愛するように あなたの隣人を愛せよ

社会福祉法人武蔵野会 基本理念

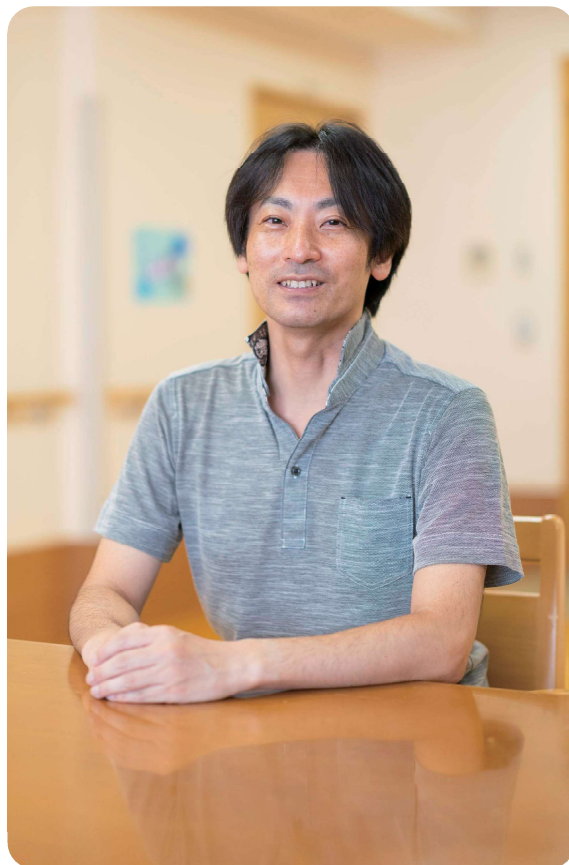
施設長あいさつ

日頃より千代田区立障害者福祉センターえみふるの運営
にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

令和 4（2022）年度は、令和 2（2020）年度からの 3 力年計画の節目の年でした。この 3 年間は新型コロナウイルスという未曾有の危機があり、これまで出来ていた当たり前のことが出来なくなる中、日常を取り戻そうとがんばりながら、ようやく希望の光が見え始めてきました。
令和 4（2022）年度、3 力年で年間の交流人口を 20,000 人にするという目標をコロナ禍ではありましたが、達成することが出来ました。

次の 3 力年計画の目標である交流人口 25,000 人へ向けて、障がいのあるなしに関わらず、誰もが利用出来、障がい者の中に健常者、健常者の中に障がい者がいるのが当たり前のごちゃまぜな環境となるように新たな取り組みをしています。

的場 康芳



「絆」を創り出す

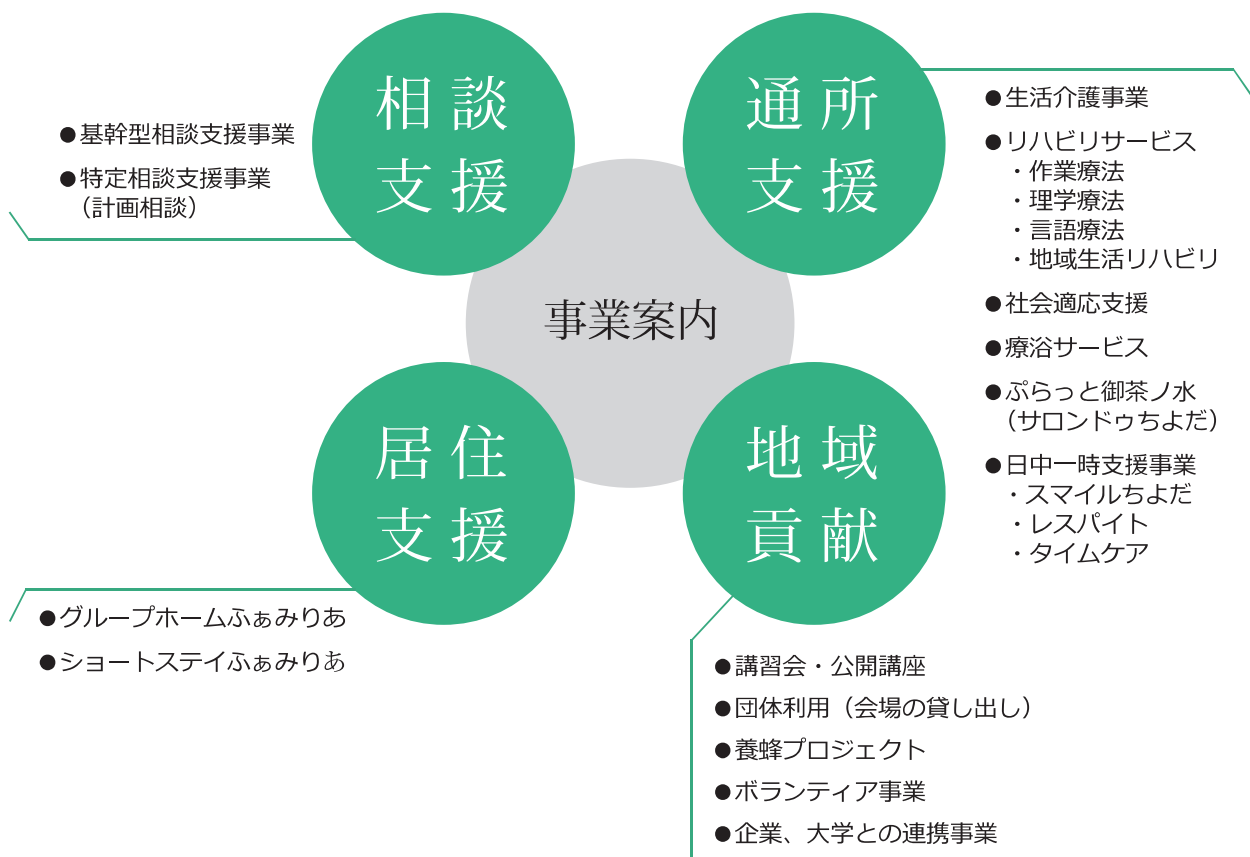
千代田区立障害者福祉センター えみふる

千代田区立障害者福祉センターえみふるは、知的・身体・精神の3障がいを対象とした福祉サービスを一元化した施設として、センターでの活動を通じて障がいを持った方が地域での自立生活を充実できるよう支援しています。

また、地域の皆様がえみふるに集い、様々な活動を通して交流する地域拠点としての活動も展開しています。

設立年月日 平成 22 年 1 月 1 日

職 員 数 47 名（有期雇用職員含む）





えみふる ロードマップと

17 の項目

導入期

令和 2 (2020) 年 4 月
 ↳
 令和 5 (2023) 年 3 月

令和 5 (2023) 年 4 月
 ↳
 令和 8 (2026) 年 3 月

形成期

完成期 ・ 到達点

令和 8 (2026) 年 4 月
 ↳
 令和 11 (2030) 年 3 月

1 交流人口



10 年後の到達点

障がいのあるなしに関わらず、地域で安心して暮らし続けられる千代田区の実現を目指す。

導入期の目標

- ・年間の交流人口 2 万人を達成する

2 地域活動 支援センター



10 年後の到達点

世代交代と同時に講習会内容の見直しを図り、出席率 70%を達成する。障がいにとらわれず、在住・在勤・在学者を対象とした事業を展開することにより、えみふるでの「小さな共生社会」の実現を目指す。

導入期の目標

- ・講習会充足率 40%を達成する
- ・部屋稼働率 60%を達成する
- ・障害にとらわれないプログラムの強化、事業展開を図る

3 ふらっと 御茶ノ水



10 年後の到達点

利用者の方が無理なく参加できる講習会、公開講座、パソコンサロン等を開講し、人が集まれる憩いの場や居場所としてのえみふる内での役割を果たす。

導入期の目標

- ・精神障害を持つ人、団体が利用できるような場所づくりを行う

4 日中一時



10 年後の到達点

ショートステイとレスパイト、利用者の用途に合わせたサービスを提供し、安定した地域生活を支える。区内の放課後デイが利用出来ない時の受け皿となる。障害児から障害者へのスムーズなサービス移行の環境を整え、継続的な支援につなげる。

導入期の目標

- ・スマイルちよだ、レスパイト、タイムケア事業を本格化させる

5 グループ ホーム



10 年後の到達点

利用者のターゲットを明確化する。入れ替わり期間を短くし、1 年以上空きのある状態をゼロにする。建設予定（旧保健所跡地）のグループホームとの差別化を図る。

導入期の目標

- ・利用率を 100%にする

6 ショート ステイ



10 年後の到達点

ショートステイとレスパイト、利用者の用途に合わせたサービスを提供し、利用者の安定した地域生活を支える。他区の受け入れを行い、利用率 100%を達成する。

導入期の目標

- ・利用率を 100%にする

令和 2 (2020) 年からの 10 年がスタートしたことを機に、私たちは「人と人、地域をつなげる『絆』を創り出す」ことをミッションに掲げました。

そのミッション達成のために 10 年間の事業計画と目標というロードマップを作成して、10 年後の到達点を描き日々の支援、進行運営に取り組んでいます。

ロードマップは 10 年をおおよそ 3 年ごとの 3 期に分け、定期的に計画を見直し、実態に即した計画にしています。

7 生活介護



10 年後の到達点

医療ケア対象者及び他区からの受け入れを可能とし、利用率 70%を達成する。他事業所との差別化を図る。他事業所利用者の高齢化に伴う受け入れ及び新規利用者（転入者）の受け入れを行う。

導入期の目標

- ・利用率を 50%にする
- ・医療ケア対象者の受け入れを開始する

8 基幹型相談支援



10 年後の到達点

地域生活支援拠点として相談体制の中心的存在となる（コーディネーター機能）。24 時間 365 日対応可能な地域体制を構築する。子どもからシニアまで、ワンストップ体制を構築する。横のつながりが生まれる相談支援体制を整備する。

導入期の目標

- ・基幹型相談件数 500 件を達成する
- ・アウトリーチ事業を本格化させる
- ・面談機能の強化・一般相談を開始する
- ・千代田区生活支援拠点としての面的整備・調整をする

9 特定相談（計画相談）



10 年後の到達点

新規利用者を受け入れる体制（仕組み）づくり

導入期の目標

- ・相談件数 4,500 件を達成する

10 社会貢献



10 年後の到達点

商店街の空き店舗を使用し、コミュニティをつくり、商店街の活性化につなげる。来てもらうサービスから出向くサービスに移行していく。地域の活性化に貢献する。

導入期の目標

- ・地域ネットワークを強化する
- ・養蜂場所を選定する
- ・地域の社会資源を開拓する
- ・社会福祉協議会との連携強化を図る
- ・地域でのイベントを年 1 回開催する

11 企業との連携強化



10 年後の到達点

企業とだからこそできる地域及び社会貢献を展開し、えみふるの千代田区内での地位を確立する。

導入期の目標

- ・連携企業数を 4 社にする

12 大学との連携強化



10 年後の到達点

大学とだからこそできる地域及び社会貢献を展開し、えみふるの千代田区内での地位を確立する。

導入期の目標

- ・連携校数を 1 校にする

13 アダプテッド・スポーツ



10 年後の到達点

障害者スポーツを通じた、絆社会を実現する。

導入期の目標

- ・アダプテッド・スポーツイベントを開催する

14 人材育成



10 年後の到達点

施設での人材確保システムを構築し、「断らない福祉」を実現する。

導入期の目標

- ・人材育成の方法と安定的サービスの構築
- ・施設の中核人材を育成する
- ・実習生受け入れを年間 30 名を達成する
- ・発達障害者・強度行動障害者・医療的ケアの専門性の獲得及び専門職の採用各 1 名を達成する

15 ボランティア



10 年後の到達点

途切れないボランティアシステムを構築する。ボランティアの質の向上を図る。将来の職員、ボランティア人材を育成する。

導入期の目標

- ・ボランティア育成講座を開講する
- ・ボランティア育成講座受講者を年間 50 名を達成する

16 障がい者文化の発信



10 年後の到達点

アートを通じた地域との繋がり構築。利用者からアーティストの誕生。

導入期の目標

- ・アートイベント出展やアート交流企画等で利用者の可能性を引き出す
- ・「障がい者アート支援事業」へ参加する
- ・利用者製作の作品を「障害者の作品・展覧会」の枠を超え、地域交流のツールの 1 つとして確立する

17 福祉防災機能

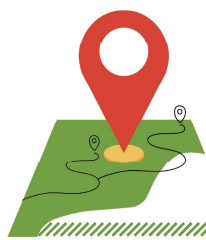


10 年後の到達点

災害時の区内でのえみふるの役割を明確にする。地域コミュニティでの受け入れ体制を構築する。横の繋がりを意識した災害に負けない地域コミュニティを構築する。

導入期の目標

- ・地域（避難所運営協議会）との連携強化
- ・避難所マニュアルの見直しと作成
- ・災害時のマニュアル作成



ロードマップ

17

項目の現在地点

令和4（2022）年度の事業を17項目の観点から総括・分析し、数字と取り組んだ具体的な内容にまとめました。さらに、10年後の目標達成に向けて、次年度の重点的な取り組みや目標を合わせてお伝えします。

それぞれの項目の数字は、前年度と比較したものはその増減を示し、新しく取り組んだものや、新たに成果としてお伝えしたい数字には「NEW」のアイコンがついています。

ロードマップからみた取り組みや数字の達成度は、「笑みがあふれる」という名前の由来にちなみ、一目見てわかる表情のアイコンは達成に近づくほど「笑顔」で表現しました。アイコンは、利用者の方と職員が指で描いたアート作品を基に作成しました。

達成度アイコン一覧



目標を達成した



維持している



未達成だった



新規事業
新たに伝えたい成果

1 交流人口



親子で参加できる機会が 新しい交流を呼び込む

長らく続いたコロナ禍も徐々に落ち着き、ワクチン接種が進み感染症対策も確立されてきたことでボランティアの再開や、公開講座の参加人数を引き上げるなどかつての日常に戻りつつあります。

特に公開講座では、プログラミングや親子陶芸教室など、お子様が参加できるプログラムを充実させたことで、親子での参加機会を拡大することができました。千代田区とも連携を図りチラシなどの配布先を増やし、目にとまる機会を増やしてきたことも交流機会の拡大につながっています。

交流人口

20,470 名

前年比

1,547 名増



次年度に向けて

地域交流をより活発に安心・安全なものとしていけるように、支援のさらなる質向上を目指します。そのため、職員間で朝礼・夕礼時を活用して目標の共有を図り、生活介護プログラムを個々の職員が十分に組み立てられるようにしていきます。

また、各種講座の周知時期を早め、十分に周知していくことで、地域の皆様の参加意欲に応えられるようにしていきます。



2 地域活動 支援センター



ボランティアでつながり広がる講習会の輪

ボランティアの再開に向け施設内の体制を整理できたことで、今年度はボランティアセンターからの紹介も受けて、ボランティアの方によるマッサージ、ネイルサロンを新たに実施することができました。

講習会は、4月までに年間計画を組み立て、1年を通じて定期的な開催になるように調整をしています。その上で、講師となる地域の方々とのやり取りを密にしていくことで、次の講師の方の出会いにつながるなど、新たな企画が生まれる交流が増えてきました。

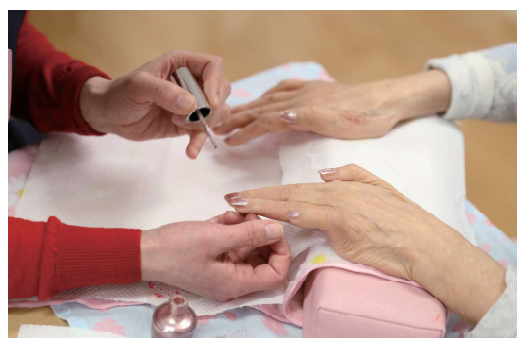
利用者数
9,224 名

前年比
1,340 名増



次年度に向けて

講習会それぞれの充足率を上げていくため、参加者のニーズの掘り起こしを改めて行います。利用者の方の視点にたち、参加のしやすさ、参加意欲を掻き立てる仕掛けを検討していきます。地域の中に暮らす皆様が活躍でき、地域の社会資源を活用していただけるようなプログラムも検討していきます。



3 ぶらっと 御茶ノ水



いつ来ても誰かがいる交流基地へ

社会との関わりを増やし「ぶらっと」立ち寄れる居場所となるよう、就労体験や座談会、散策など利用者の方が主体となるプログラムの企画・実施を進めました。

利用者の方が自己肯定感を育み、自己実現のスタート地点として活用いただけるように、いつ来ても誰かがいて交流が生まれる空間づくりに取り組みました。交流拠点として育んでいくためにも利用者の方からいただいた声を紹介して開かれた環境づくりに励みます。

利用者数
423 名

前年比
8.13 倍



次年度に向けて

利用者の方が社会参加する際の漠然とした不安を解消するため、認知行動療法を用いたマインドトレーニングや当事者同士で話を聞き合うピアカウンセリングなども取り入れ、居心地の良さを追求していきます。

利用者の方の状況に応じた振る舞いなど社会生活の中で必要なスキルを養えるように、職員向け研修も行い専門性向上を図ります。



4 日中一時



Instagram でつながった 講師と新たなプログラムを開催

今年度は運動プログラムにバリアフリーピクスが加わりました。このプログラムは、えみふる公式 Instagram を通じた講師の方の問い合わせから実現したものです。日常の活動の様子を発信し続けてきた Instagram も令和 5 年 10 月現在、1 万人以上の方にフォローいただいています。投稿から活動の認知度を高め多くの参加者とつながってきたことはありましたが、講師の方と出会えたことはこれまでになく、継続してきたことの成果です。参加者の拡大には講座のバリエーションも大切になります。そのため、このような SNS も活用した講師発掘をさらに進めていきます。

スマイルちよだ
参加者数

1,723 名

前年比
155 名増



次年度に向けて

平日のプログラムは安定的に開催出来ており、人気講座は定員を超過する希望をいただいていることもあります。そのため、さらに多くの方の参加意欲に応え、充実した活動を展開するために、土日開催のプログラムも検討していく予定です。



5 グループ
ホーム



大満足のツアーにする、実施の工夫

社会的にも新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたため、対策を継続しつつも外出機会を増やすことができた 1 年でした。利用者の方の想いに最大限応えるために、外出プランについて、場所までの移動や実施方法など多角的に検討し、今年は都内観光バスツアーが実現しました。天井部分が開けた造りのバスに乗り、換気に留意したり、過密にならないような席順配置にしたり、感染防止の観点でも工夫して行えました。利用者の方からは「また行きたい！」と満足の声が寄せられました。

利用率

100%

前年比
同率



次年度に向けて

グループホームでの生活はそれぞれが就業したり、施設外で活動したりする時間もあり、その方ができることに合わせた声かけや支援、自主性を支える関わりを意識していきます。職員体制もローテーションとなるため、日勤帯で十分に関わりを持てるようにして利用者の満足度につなげます。



6 ショートステイ



相談からつながり、新規利用者が増加

今年度は新規の利用者の方が増え、コロナ禍以前の水準に戻りつつあります。対外的な広報活動は積極的には行っていないものの、区内の相談事業においては、えみふるが最も相談を受け付けている状況もあり、その認知度から利用につながるケースが多くなっています。

また、緊急の利用の要請はなかったものの、身体障害、知的障害、精神障害、難病のある方の支援において専門性を有する事業所でもあるため、区民のニーズに応える受け入れの体制も整えています。



次年度に向けて

支援の質向上のため、職員研修の充実を図ります。

夜間は職員数を絞り支援にあたっている状況があるため OJT による専門性向上よりも、日中での内部研修の実施やローテーションを加味した研修機会を設定していくことに注力し、職員が学びやすい環境を整えていきます。



7 生活介護



地域参加の意欲に応える外出支援が再開

今年度から外出を再開し、広い範囲での外出が可能になり、利用者の方の地域参加への意欲によりやく応えられるようになってきました。終日の外出企画では 17 の候補地から距離や設備、利用者の方が安心して楽しめる環境がとれることなどで絞り、実施に至りました。

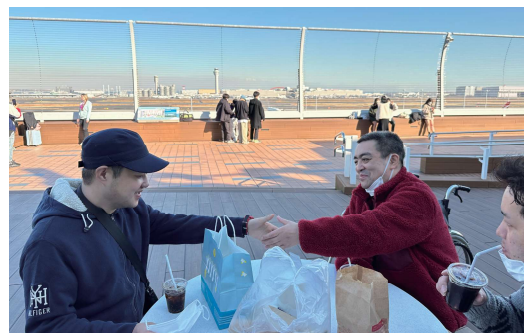
綿密な計画を立て、今年は葛西臨海水族園、羽田空港にグループを分け、興味や希望、それぞれの方のペースに合わせて職員が引率して外出を楽しみました。この 3 年の中で入職した職員は、外出先でいきいきとした様子の利用者の方を初めて見ることができました。



次年度に向けて

外出機会や活動の幅も広がっていくことから、よりチームワークが重要となります。そのため、職員それぞれの個性や長所を生かしてレクリエーションを担当してもらうなど派遣職員も含め、役割への期待をこめたチーム作りを行います。

また、日々の支援で感じたことを率直に話せる振り返りの時間や打合せを持ち、困りごとをそのままにしない体制をつくっていきます。



8 基幹型 相談支援



相談支援の要として 地域全体の専門性向上を図る

長年、千代田区の特定相談の約8割を受けていることもあり、就労事業所から利用者の方の就労時間以外の生活基盤を整えるために、現状についての相談をえみふるにご連絡いただくなど、関係機関から相談を受けるケースが特に増えました。地域の中でサービス利用前の相談や困りごとの幅広い受け皿をえみふるが担っていくことへの期待を感じました。

基幹型相談支援で取り組んできたことを関係機関との協働の中で伝えるなど、地域全体の連携体制を強化していくため、権利擁護のリーフレットを用いた研修を事業者向けに行うなどの専門性向上も図っています。

相談件数

277 件

前年比

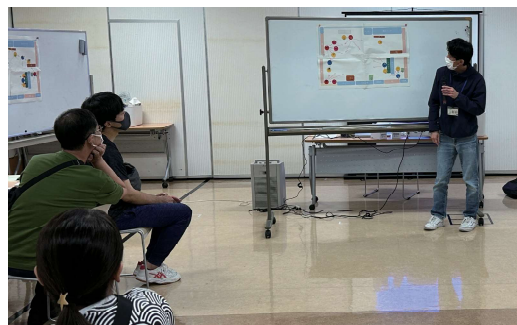
191 件増



次年度に向けて

区内の事業所からの期待に応える専門領域の研修を引き続き企画・実施していきます。

また、千代田区内の相談支援の質向上という役割を認識し、特定相談事業所を招いての事例検討会をより参加者のニーズをとらえ参加意欲に応えるものにするため、同じく相談支援を担う事業所との協働で検討会の在り方を模索していきます。



9 特定相談 (計画相談)



利用者の方と事業者 双方に頼られる相談支援

区役所で受けた新規相談の一番の受け皿となっているのがえみふるであり、「断らない姿勢」で対応してきたことが相談・契約件数に表れています。

利用者の方の相談を丁寧に受け止め、サービス利用の事業所にスピード感を持って情報共有できたことは、双方の信頼につながりました。サービス契約後も、利用者の方、事業所のいずれかから困りごとが出た場合には、間に入って利用者の方の特性や思いに沿って専門的なアプローチで課題解決に努めており、「頼れる伴走者」としてともに歩みました。

契約件数

204 件

NEW

次年度に向けて

利用者の方の安心した生活のため、相談の一番の受け皿であり続けることと同時に、現実的に受けられる相談の上限も見据えて、他事業所と相談の受付状況を互いに共有して、千代田区内全体での相談を受け止められる体制づくりを目指します。

また、相談支援は個別性が大きく高度な専門性も必要となるため、相談員の人材確保と育成は継続的に取り組んでいきます。



10 社会貢献



養蜂を通して広がるコミュニティ

2年目となる養蜂プロジェクトは、大学教授や専門家から学ぶ機会や、学生との交流も生まれるなど蜂をきっかけに関わりが広がりました。蜂を眺める、作業を行うなど参画の仕方や活動時間もそれぞれのペースを重視したことで、それぞれの楽しみ方が見つかる居場所になってきています。さらに採取した蜂蜜は「和花（のどか）」という名前で、今年度ついに販売を開始しました。生産数など今後の課題はあるものの、商品化によってプロジェクトへの関心や販売への期待の声をいただいています。

養蜂活動日数

26日

NEW

次年度に向けて

利用者の方が収入を向上させ、社会参加をさらに促進するために、蜂蜜「和花（のどか）」の販売数の安定を図り、地域の中に浸透していくことを目指します。

採蜜などの活動期間だけではなく10月以降にも蜂の生態系に触れる企画や蜂蜜を使った公開講座など活動への参加意欲を引き出す機会を設け、新たな参加を生み出していきます。



11 企業との連携強化



職員が主体となり

企業との連携の幅を広げる

アート、アダプテッド・スポーツ、講座などの担当職員から取り組みを伝え、区内の企業やカフェでの商品販売などの新たな連携先を増やすことができました。それにより地域の中での認知度のさらなる向上を図っています。また、今年度はJR御茶ノ水駅構内や社会福祉協議会アキバ分室内で作品展示を行うことができ、多くの人の目に留まる場で、利用者の方の活動を作品から感じてもらったことは大きな成果でした。屋上菜園については継続して行っており、利用者の方の活動においても、新たに見つけると同時に、持続可能な連携の在り方が重要になってきます。

連携数

8団体

前年比
1団体増



次年度に向けて

企業との連携を安定して継続できるよう、施設としての目的やビジョンを明確にして企業へアプローチし、個人ではなく組織同士の連携を目指します。

まずは、アート、アダプテッド・スポーツ、講座など連絡窓口を明確にしていきます。加えて、定期的な情報発信により施設の強みからコラボレーションのアイデアを示していくなど、企業側のメリットにもなる連携を提示していきます。



12 大学との 連携強化



大学に赴き、 スポーツを介した学生との交流機会を創出

今年度は社会福祉士実習で受け入れた上智大学学生を通じて、パラスポーツの推進を目的に活動しているサークルとつながりができ、合同でボッチャ交流会のイベントを企画・実施しました。

交流会は大学で開催したことで、障がいのある方が大学に行くことはもちろん、えみふるに足を運んだことのない学生も利用者の方と交流する機会になりました。近年、ボランティア機会を充実させたい大学が学生へボランティアを課題として課すこともあり、多くの大学のキャンパスを有する千代田区という地の利を活かし、周辺大学への積極的なアプローチを行っています。

交流大学数
2校

前年比
1校増



次年度に向けて

次年度は納涼祭について、コロナ禍で中止していた模擬店を復活させるなど、規模を拡大して開催する予定です。

そのため、早期に大学のボランティアセンターなどに赴き、ボランティア機会を探す学生とのマッチングを図っていきます。周辺大学との行き来によって地域に開かれた活動を目指していきます。



13 アダプテッド・ スポーツ



地域の中で共に アダプテッド・スポーツに親しむ楽しさを

アダプテッド・スポーツに親しめるイベントを3回開催しました。その内、2回はちよだコミュニティラボで出会った講師や大学との共催の形でエスコートダンスやウォーキングサッカー、ボッチャを全て一日の中で体験できるイベントを行いました。30名ほどの参加者から協力学生や様々な年代の方や障がいのある方が混ざりあってチームをつくり、勝負を通して交流が生まれました。

大学という普段とは違う環境で開催したことで新鮮な驚きや新たな楽しさを見いだせたことで、改めて地域社会に出ていくことの大切さを感じました。

外部イベント
参加回数

4回

NEW

次年度に向けて

公開講座など来場型での参加機会は広がっているため、今後は地域の施設を借りて講座やイベントを開催していくことを計画していきます。

地域の中の社会資源を使い、スポーツという共通体験の中で一歩踏み込んだ交流を促していきます。その積み重ねの先に障がいのある方の理解の促進や共に生きる地域が育まれると考えています。



14 人材育成



地域で暮らす障がいのある方の暮らしを 看護学生へ伝える

社会福祉士、保育士に加えて、今年度は初めて看護学生の実習の受け入れを行いました。

コロナ禍により病院での実習が制限される中、精神障害の専門性がある機関で実習を求めている大学よりWEBサイトを通じて依頼があり、広い視点で地域の次世代を育成するため、調整を重ね受け入れに至りました。

在宅医療を考える意味でも、在宅生活を送る方が利用する「ぷらっと御茶ノ水」での交流やイベントを通じた地域交流から福祉に触れ学ぶことのできる機会を提供しました。

実習生等受入人数

41 名

前年比
27 名増



次年度に向けて

学校側の実習のニーズに寄り添い、多くの学生の実習を受け入れる中で、同時に地域福祉の担い手としての魅力を伝え、次世代を担う職員の人材確保を目指します。

1日当たりの実習の受け入れ目標人数はいまだ達成に至っていないため、受け入れの職員体制の検証と見直しを進めていきます。



15 ボランティア



得意なことで関われる、 ボランティアの受け入れへ

今年度は新たにマッサージ、ヘアカット、絵本の読み聞かせのボランティアの受け入れができ、ボランティアの幅が広がりました。これまで培ってきた講座運営のノウハウとボランティアの受け入れ体制を整えてきたことで、ボランティアの方の想いや専門性を活かし、活躍するステージを徐々に設けることができてきました。

また、過去にボランティアをした方が取り組みに賛同し、ボランティアの方を新たに紹介してくれるなどさらなる展開もありました。よりボランティアの方が主体となって企画できるように、主催者としてのコーディネーションに力を入れていきます。

ボランティア
受入人数

295 名

前年比
64 名増



次年度に向けて

継続的にボランティアに来ていただくには、絶え間ない日々の活動の魅力発信やできることが見える情報発信をしていく必要があります。

そうすることで新たにボランティアを希望する方と出会い、受け入れを拡大させていくことを目指します。それと同時に、継続してボランティアに来ていただくためにも、希望に沿える受け入れ体制や活動の幅を広げていくことに努めます。





利用者の方のアート作品が 商品になりました

今年は Instagram を通じて、えみふるのアート作品をデザイナーによるアレンジを加えて商品化したいというオファーを受けました。

団体とのやり取りを進めた結果、3点のアート作品がTシャツ、マグカップなどの商品となり、オンラインショップを中心に販売されました。利益の一部は利用者の方の収益にもなります。

利用者の方の作品をデザイナーによるアレンジでアートとして付加価値をつけていくことは、作品展示とは違った切り口で作品に触れていただける機会となりました。

作品の商品化

3 種類

NEW

次年度に向けて

今後はボランティアの方やアートに関する学校も地域の中にあるため、協働していくことでアイデアをもらったり、活動へご協力いただいたり、活動自体を深化させていくことも必要だと考えています。

安定的に活動が展開できること、その上で作品が充実してくることで、作品を介した新たな交流を生み出したいと考えています。



職員誰もが触って、 誰でも使える防災無線へ

災害発生時を想定した職員と利用者による防災訓練を毎月 1 回実施しました。訓練では、施設に設置されている防災無線を用いて、一人ひとりの職員が有事の際にも無線を使用できるよう使用方法や操作手順の確認も行っています。職員の勤務状況により毎月の訓練の参加者は違っており、様々な職員が操作する機会も増えたことで無線操作が可能な職員が増えてきました。今後も災害発生時に近い環境での訓練により、災害に備えた施設づくりを進めます。

図上訓練
実施回数

1 回

NEW

次年度に向けて

福祉避難所の立ち上げまでの図上訓練を千代田区と共に実施しており、次は実地訓練を予定しています。

そのため、区が作成した受け入れマニュアルを、各階の形状に沿った避難経路を敷くことや避難用具の設置場所など施設に合わせて誰もがわかるようにするといった、より具体的で実行力のあるものに更新していきます。



えみふ ART GALLERY

年間を通して、様々なアート活動を行うえみふるでは個性豊かな作品が日々生まれています。時間をかけて「多くの人の手を借りて作品になるもの、自分の「スキ」を形にのびやかに表現されるもの。この世に一つの作品のそれぞれにストーリーがあります。アニュアルレポートでも作品の一部を紹介していきます。

気に入った作品はぜひ足を運び、
見にいらしてください。



講習会・公開講座

作業療法（定員：14名）

理学療法（定員：1日当たり6名）

言語療法（定員：1日当たり4名）

地域生活リハビリ・高次脳機能障害者リハビリ（定員：5名）

社会適応支援・就労をしている障害者向け（定員：10名）

療浴サービス（自立浴、半自立浴、機械浴）

団体利用（会場の貸出）

ぷらっと御茶ノ水（サロンドウちよだ）・心の病を抱えた方向けのサービス

日中一時支援事業（スマイルちよだ、レスパイト、タイムケア）

グループホームふぁみりあ（定員：4名）

ショートステイふぁみりあ（定員：1日当たり4名）

生活介護事業（定員：20名）

基幹型相談支援事業

特定相談支援事業（計画相談）

社会福祉法人 武蔵野会

千代田区立障害者福祉センターえみふる

発行：令和5（2023）年10月

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2丁目5

TEL：03-3291-0600

FAX：03-3291-0608

Email：emifuru@chime.ocn.ne.jp

公式サイト



<https://emifuru.com/>

X（旧：Twitter）



Instagram



facebook

